

# 2030年 逗子の未来

逗子市をもう一度「日本一」にするための、  
2030年までの政策シナリオをまとめました。

この街の持続可能な明るい未来を、逗子市のみなさんとつくるために、  
もう一度、市長にチャレンジします！

**長島一由** (55歳)

元逗子市長、元衆議院議員

## もう一度、日本一のガラス張りの市政を実現！

1998年  
～  
2006年  
長島一由が  
逗子市長時代

2002年全国透明度ランキング**1位**達成

(就任前全国約700自治体中256位から大幅改善)

2004年効率化・活性化度ランキング**1位**達成

“

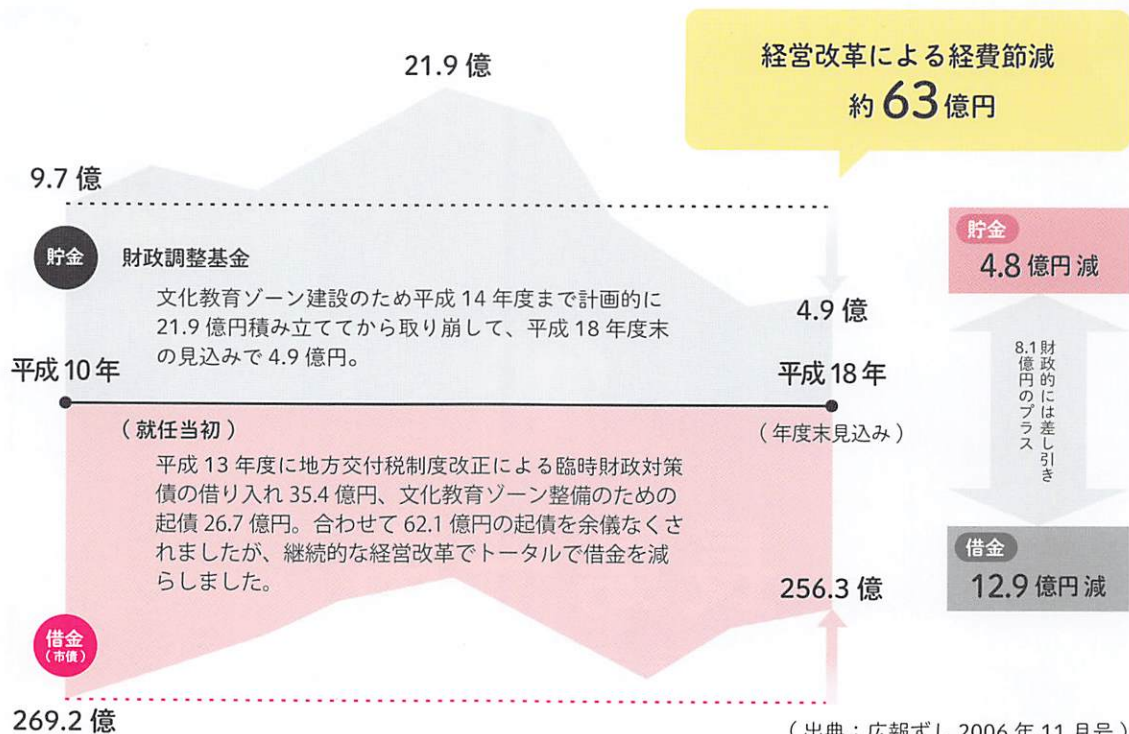
### 再び逗子を自治体経営**日本一**のまちにします！

”

もちろん、市長在任中は政治献金は1円たりともいただきません！

#### 逗子市長時代8年間の財政手法の結果

(年間一般会計予算180億円規模)



## 逗子市役所を働きがいのある職場へ!

- 職員半減化構想の再開（行政サービスの \*DX 化などの推進）  
⇒ 向こう 15 年間で 100 億円近い新たな財源確保
- 会計年度任用職員からの正規職員登用制度の導入
- 管理職職員へクオータ制の導入による女性の活躍（まず、15%から 30%へ）

\*DX化：デジタルを用いて競争上の優位性を確立すること。

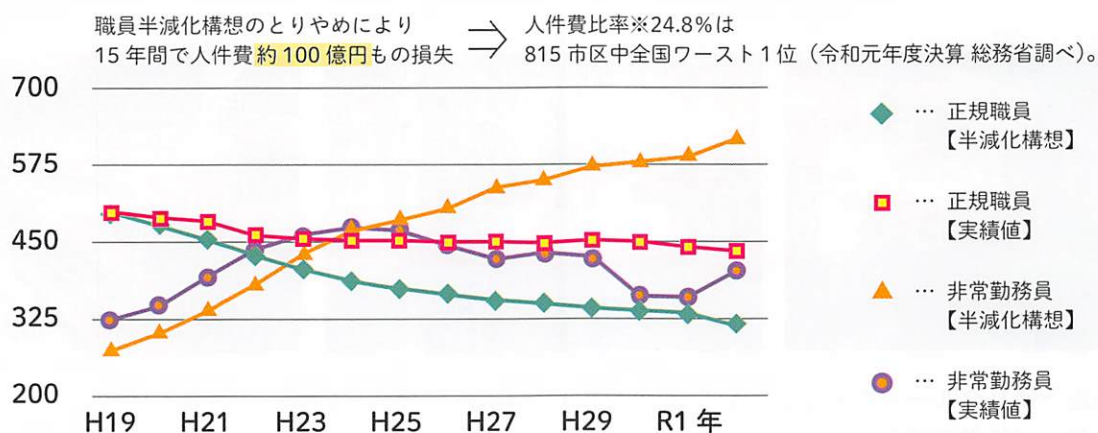
“

### 自治体として初めて GREAT PLACE TO WORK の認定取得（働きがい認定企業）にチャレンジします!

”

市役所が働きがいのある場所になれば、それは逗子市が「住みがいのあるまち」になるということです。市民の皆さんとともに、市長、市役所職員が共に街をつくりあげていくエコシステムをつくりたいと考えています!

#### 職員半減化構想と実績値の乖離



※人件費比率とは歳出総額に占める人件費の割合のこと。（逗子市職員課提供データより令和3年12月作成）

## “あたりまえ”を先取りする市役所をつくります！

### ～民間企業と同水準の組織イノベーションへの取り組み～

- 外部人材の積極登用、人材採用の透明化を推進
- 民間事業者との業務連携を推進し、業務効率を大幅改善  
(マッチング・コンサルタントの配置やクラウドソーシングの活用等、地域経済との循環)
- キャリア中断した女性等も含めたリクルーティング機能の拡充
- 学生インターンを積極的に受け入れ、時代にキャッチアップ
- 会計年度任用職員の一括公募及びスキル研修の強化  
(募集人材の50%を市外から誘致し居住要件を求める等、地域活性化への貢献を兼ねる)
- (株)パブリックサービスへのアクセス改善  
(より良い行政サービスを実現するため、\*クロスセクターでの対話機会を増やします)

\*クロスセクター：特定非営利法人など行政の垣根を越えた連携のこと。

“ 若年世代やシニア世代の感性、経験を積極登用し、  
経済対策、地域アンチエイジングを推進します！ ”



衆議院議員退任後リクルートホールディングスの北欧（スウェーデン、デンマーク、フィンランド）担当として優良企業から学んだ経営手法を逗子市役所に活かす。

写真は Great Place to work のランクインの常連 フィンランド・ヘルシンキ大学薬局

## 逗子市を日本一の健“幸”都市に!

### 独自モデルで高騰する国民健康保険料の引き下げを実現

年収 500 万円以下の方が市指定の健康診断を受診した場合、国民健康保険料の均等割分を 5 割引き下げます。(まずは 5 年間試行)

(特定健診受診率倍増すれば約 3268 万円の行政収入減となりますが、人工透析の患者数が年間 10 人減れば約 5000 万円の医療費節減に寄与します)

“

自然災害や感染症リスクの時代を見据えた在宅医療支援の拡充  
オンライン診療や処方などを推進し、医療インフラを再構築します!

”

#### 【逗子市の人工透析の患者数及び市民 1 人当たり平均医療費】

\*人工透析の医療費は、一般的に 1 人当たり約 500 万円/年といわれている。

	令和 2 年
患者数	147 人
1 人当たり医療費	361,543 円 ※H18 (261,423 円) 比 38%増

(出典：逗子市福祉部国保健康課)

#### 【国民健康保険料(年額)について】

(平成 18 年度) 398,000 円  
(令和 2 年度) 547,400 円  
(比較) +148,500 円 37%UP

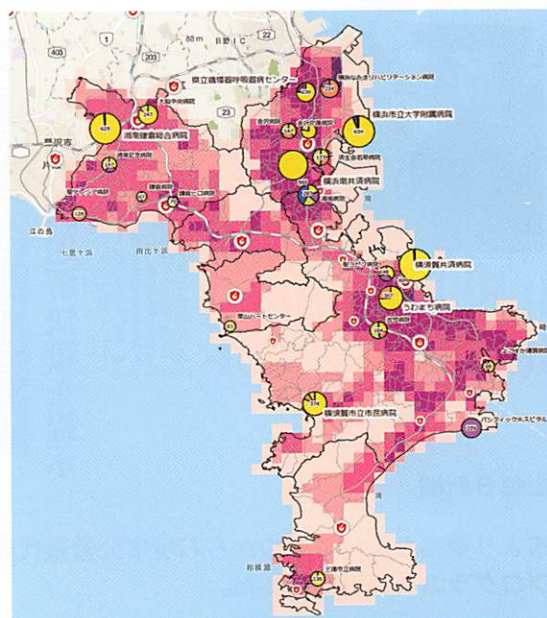
<対象とした世帯モデル>

- ・夫婦(40~64 歳) + 子ども 1 人の 3 人世帯
- ・世帯収入(給与) 600 万円

(出典：逗子市福祉部国保健康課)

三浦半島地区では逗子市のみ中核病院がない

※逗子市の一般病床数 36 床は病床を有する全国 788 自治体中  
全国ワースト 3 位(令和元年厚労省調べ)。



(出典：早稲田大学公共経営研究科小林伸行氏の PT ペーパーより)

## 私立校と公立校の格差をなくします！

～全ての子供たちに多様なチャンスを与える公教育をデザイン～

- 逗子市公営塾創設、運営による個性を活かした進学支援
- 学習アプリ等の活用に対する個別児童への助成制度の導入（所得制限あり）
- 美味しい中学校給食への改善
- 小中学校給食の無償化検討（小中で合計、年間2億500万円の経費かかるため段階的に）
- 地域スポーツクラブの創設、支援などによる部活動の教員負担を軽減

“ 地域資源を活かしたマリンスポーツの振興や  
クリエイティブ教育の機会を積極的に推進します！ ”



石垣市公営塾  
島の問題解決策を提示  
高校生が映画製作

石垣市公営塾  
島の問題解決策を提示  
高校生が映画製作



平成30年、石垣市公営塾

ウインドサーフィン授業の1シーン  
八重山高校の学生への指導

八重山毎日新聞

石垣市より委嘱を受けてゼロから石垣市公営塾代表として  
教育プログラムを実行しました。

\*平成30年11月20日付転載許諾済み

## まちの課題と可能性に向き合った、都市経営実践！

- 東日本大震災後、津波想定の変更（※1 最大5mから最大10m）に伴う住民投票も視野に入れた **逗子市まちづくり条例の改正検討**（津波避難ビル協力地には高さ制限の緩和など）

※1 震災前、津波は国道134号線を超えず市内に浸水しないという想定。  
震災後は津波が池子の「逗子アリーナ」まで到達想定に変更された。

- **渋滞緩和に向け、eモビリティやマイクロモビリティの普及への官民連携**  
（市税条例29条による税の減免や公共施設の割引等で\*カーボンニュートラルをリードします。）

- **フィルムコミッションを活用し、逗子の魅力を高め、映画・映像のまちづくりに力を注ぎます。**

\*カーボンニュートラル：温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすること。

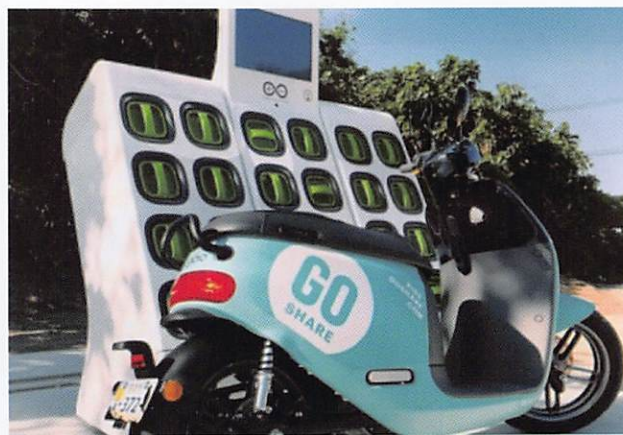
“

多様性と先進性が調和したまちづくりを推進し、国内外へ、その価値を発信していきます！

”



逗子市長時代に発案・企画 2005年11月23日建立され  
逗子のランドマークとなった「太陽の季節の記念碑」



逗子での電動バイクの普及率はR3.12現在0.4%、31台⇒10年以内に46%、100倍増を目指す。

また、今後予定されるJR逗子駅周辺整備に電動キックボード預り所の設置交渉をJR東日本と行う。エコに加え、日本一平均通勤時間が長い市民の利便性を高める。

# 人生という時間価値を高める、 地域社会と組織のデザイン

日本は世界幸福度ランキング（SDSN 2020年）で153か国中62位。

日本の弱点は、選択の自由度の狭さ、通勤時間と労働時間の長さが指摘されている。

例えば、上位にランクインする北欧の人々に比べ、日本人は年間で約300時間も多く働いている。あたり前のことだが、1日24時間、1年365日。与えられた時間はどこの国の人にも平等だ。だが、北欧の人々は1日や1年の使い方、もっといえば人生90年の使い方が日本とは違う。それは、時間の価値を最大に高める合理的な仕組みが自治体にも企業にも、そして学校にもあるからだ。

私たちは逗子で時間の価値を高められているだろうか。逗子市民の選択の自由度は広がらず、逗子市民の「時間価値」が大きく損なわれていないか。

逗子市役所は04年には効率化・活性化度全国1位（日経調べ）になった自治体である。しかし、その後の自治体経営の失敗や創意工夫の欠如により、教育や福祉、まちづくりに大胆な投資ができない状況が続いている。今や全国815市区中、人件費比率、1人あたりの公共事業費ともに全国で最低・最悪になってしまった（※1）。

だから、この政策集には、今、私が市長ならばこうするということを書いた。①子どもからシニアまでキャリア選択の自由度を高めること。②渋滞解消や通勤時間（※2）の短縮に取り組むこと。③医療環境、防災の安全度を高めること。この①-③の政策に取り組むことで「逗子時間」の価値を高めることができる。全て数字やエビデンスに基づいた「2030年逗子の未来」への選択肢である。

※1 人件費比率24.8%は815市区中全国ワースト1位。人口1人あたりの公共事業費4,698円は815市区中ワースト1位。ともに令和元年度決算 総務省調べ。

※2 逗子市の平均通勤時間62.4分は、815市区中全国ワースト1位。平成30年総務省調べ。



## 元逗子市長、元衆議院議員 長島一由

無所属・55歳 家族：妻と長女、次女

早稲田大学卒、東大院修了（修士・法学）、東京藝大院修了（修士・映像）、横国大院博士後期課程修了、『議会による行政統制』学位論文で博士号を取得。

フジテレビ報道記者・ディレクター、リクルートホールディングス Works 誌編集長、石垣市公営塾代表、同志社大学生命医科学部共同研究員等を歴任。1998年全国最年少市長（31歳）として逗子市長に就任3期8年務めた。市長在任中、逗子市を透明度ランキング全国1位、効率化・活性化度ランキング全国1位のまちにした（日経調べ）。著書『浮動票の時代』（講談社）ほか3冊。2016年に監督した映画作品『The Calling - 神様から与えられたお仕事 -』がハワイ国際映画祭に入選、ベストドキュメンタリー観客賞の対象作品にノミネート。

趣味：ウインドサーフィン（1988年全国日本チャンピオン、1996年世界選手権3位入賞）  
2019年世界選手権フリースタイル決勝進出6位

公式ホームページはこちらから

<http://nagashima-kazuyoshi.com/>

